



The Door Step to Japan

vol.49

2023年 秋冬号

日本の扉
浅草
浅草・槐の会
ASAKUSA

令和五年 癸卯

令和六年 甲辰

七月 (亥月) 二十九日 隅田川花火大会	八月 (酉月) 十五日 万霊燈籠供養会	九月 (長月) 五日 台東薪能 二十三日 彼岸会 十七日 浅草サンバカーニバル	十月 (神無月) 十八日 金龍の舞 菊供養	十一月 (霜月) 三日 白鷺の舞 十一、二十三日 西の市 十五日 七五三	十二月 (師走) 十七、十九日 歳の市(羽子板市) 三十一日 除夜の鐘(弁天山)
一月 (睦月) 初 浅草名所七福神もうで	二月 (如月) 三日 筋分の日	三月 (弥生) 八日 針供養	四月 (卯月) 十八日 浅草観音示現会・金龍の舞	五月 (皀月) 五日 室の舞	六月 (水無月) 二十九、三十日 お富士様の植木市
七月 (首月) 初 浅草名所七福神もうで	八月 (辛酉) 三日 筋分の日	九月 (仲秋) 八日 針供養	十月 (重月) 十八日 浅草観音示現会・金龍の舞	十一月 (霜月) 三日 白鷺の舞	十二月 (師走) 十七、十九日 歳の市(羽子板市)
一月 (睦月) 初 浅草名所七福神もうで	二月 (如月) 三日 筋分の日	三月 (弥生) 八日 針供養	四月 (卯月) 十八日 浅草観音示現会・金龍の舞	五月 (皀月) 五日 室の舞	六月 (水無月) 二十九、三十日 お富士様の植木市

※ 催事日程につきましては変更になることが御座います。予めご了承ください。

浅草を彩る9月~2月の代表的催事

9月 長月

彼岸会

● 9月23日

お彼岸は、気候もよく太陽が真西に沈むこの時期を修行にあて、太陽の恵みに感謝し五穀豊穡を願う祈りに端を発しています。浅草寺では、五重塔に霊柩を安置しているご信徒に拝殿を開放し、自由に参拝していただいています。

10月 神無月

金龍の舞

● 10月18日

浅草寺の正しい名称は「金龍山浅草寺」といいます。金龍山の山号は、浅草観音承応縁起に書かれている「十八日、寺辺に一夜にして松千株ほど生ず、三日を過ぎて天より長さ百すばかりの金鱗の龍、松の中に下りし」に由来しています。この故事を踏まえて創作された舞が「金龍の舞」です。毎年3月と10月の18日に、いなせ半纏、はらがけ、もも引きの江戸っ子姿の浅草寺舞保存会メンバー9名の手によって勇壮に演じられています。



10月 浅草菊花展

11月 霜月

白鷺の舞

● 11月3日

今でも浅草は江戸の名残を最も色濃く残す町、東京の代表的下町として全世界の人々の人気を博しています。平成元年11月3日から始められた「東京時代まつり」は、東京の歴史と文化の原点は浅草であるという観点から、江戸・東京の歴史絵巻の行列が浅草の町を行進します。さまざまな時代絵巻は、多くの観客を集める催しとなっています。この時代絵巻の一つに白鷺の舞があります。白鷺の舞は古い時代の祭礼行列の中にある「鷺舞」の姿を浅草観光連盟が復興したものです。

酉の市

● 11月11・23日

酉の市は、秋の収穫期に神社に鶏を奉納した「とりまつり」に由来し、神社から農家に授ける熊手が「とりこむ」ということで縁起が良く、商売繁昌を願う催しとなりました。酉の市で有名なのが浅草・千束にある鷲（おおとり）神社。その愛称である「おとりさん」がいつしか酉の市のことを指すようになりました。酉の市は11月の酉の日に開かれます。三の酉までである年は火事が多いという俗説があります。火の用心にはお気をつけ下さい。



11月 白鷺の舞

12月 師走

納めの観音、歳の市《羽子板市》

● 12月17~19日

毎年観音様の御縁日である18日の前後を含めた17、18、19日の3日間行われており、もとは正月の飾り物などを中心とした市でした。今でも観音北側の広場では、しめ飾りなどの卸売りをするお店も立ち並び通常「ガサ市」と呼ばれ、これを小売りする人達が仕入れにきています。江戸末期より「生まれた子が邪気をはねのけ健やかに育つ市に通じる」との謂れから女兒の出産には必ず羽子板を贈る風習が始まり、今では「羽子板市」と呼ばれるようになりました。



1月 浅草観音初詣



2月 節分会

1月 睦月

浅草観音初詣

● 1月1日

除夜の鐘と浅草寺開扉とともに始まる初詣。正月期間中、表参道である仲見世をはじめ境内は華やいだ人々で埋まります。

2月 如月

節分会

● 2月3日

節分とは一年の春夏秋冬を分ける言葉で本来年に4回あるはずですが、現在では立春の前日のみをさしています。浅草寺では1時と2時の2回にわたり、信徒の有志が年男となり本堂東側回廊の舞台で、また西側影向堂の舞台では観光連盟主催による豆撒きが古式追儀式の終了後2時半~6時までの間5回に分けて行われています。



1月 江戸消防記念会・はしご乗り

9月~2月 その他の催事

- ◆七五三加持会……………11月15日
- ◆除夜の鐘……………12月31日
- ◆浅草名所七福神詣り……………1月1日~
- ◆江戸消防記念会・はしご乗り…1月6日
- ◆待乳山聖天・大根祭り……………1月7日
- ◆針供養……………2月8日

※催事日程につきましては変更になることが御座います。予めご了承ください。

第十三回

「浅草の行事・前編」

浅草寺子屋

講師
荒井修



この記事は2009～11年に文化・芸術・観光のまちづくり協会が主催した「浅草寺子屋」の内容を再現したものです。講師を務めたのは我が槐の会のメンバーであった荒井修氏。浅草の老舗舞扇店「荒井文扇堂」の四代目店主です。この講演のおよそ5年後、2016年2月22日に逝去されました。浅草や江戸の文化に精通し、浅草の町興しのオピニオンリーダーでもあった氏の知見を後世に伝えていくために、小誌ではこの記事企画しました。

初詣じゃなくて
夜中に行くのは除夜詣



クリスマスという日に今年最後の寺子屋をやるといふこと。お集まり具合はどうかかなと思いましたが、よく集まってくださいました。僕は浅草の一年の行事についてしゃべると大体4回くらいはしゃべる。それを今日は1時間半1回だけでしゃべるので、どうなるか分からないけど、行けるところまで行ってみましょう。

それでは年の初めから。まず、配ったプリントの初詣の上に「除夜詣」というのがありますけれど。世間が間違ってるのは、大晦日、紅白歌合戦が終わって12時、鐘がポーンと鳴るとともに行くのが初詣だと思っている人が多いんですけど、あれは初詣とは言いません。初日の出が上がるまでは除夜詣というんですね。僕らが子供の頃には、大晦日の晩に寝る奴はバカだって、歌を歌ったものだけれど。除夜ですからね、夜を除くんですからね。でも寝ちゃうんですね、眠くてね。

除夜詣というのは、着物は仕事着のままでもいいんです。着飾る必要がない。そんな大き

な神社仏閣に行かなくていいんです。近所の神社かなんかにお参りする。先代吉右衛門の俳句に「女房も同じ氏子や除夜詣」というのがありますが、粋でしょ？ つまり氏神様のところに行くわけなんです。その時に特別な着物に着替えることなく、さっきまで二人で仕事していた格好のまま、「ちょっと行こうじゃねえか」って。今はもう、12時と同時に着飾っちゃって大変なことになっていきますけど。

恵方参りの初詣
縁起のいい方角へ



で、初日の出が上がってからの参りが初詣です。こうなると着るものは昨晚とは違いますよ。よそ行きに着替えるんですね。古い言葉で行くと「お蚕ゾッキ」なんつって、絹物にすべて着替えて。ゾッキというのは全てということですからね。

お参りは必ずしも毎年同じところにと限っているわけではない。例えばね、恵方参り。今年はこの方角が縁起がいいよっていうと、自分の家からそっちの方角に行って、最初に出会った神社仏閣にお参りする。それから流

行神なんてのもあるんですね。「どうも暮れから火事が多いね」なんていうと、「じゃあ、秋葉様に行こう」なんつって。あるいは病気が流行ってるよなんていうと「お薬師様行こう」なんつって。その流行っているものにご利益のあるところに行くのが流行神。

大晦日の晩ですね、12月31日の日から観音様では修正会しゆしやうえっていうのをやってるんですけど。「会」を「かい」と読むのは神社で、「え」と読むのが寺。節分なら「せつぶんえ」。神社で開くと「せつぶんかい」になるわけなんです。元は元日から七草までやってたんです。それが今は寛永寺に倣ってですかね、31日から6日までやってありますが。正月祈禱、正月に自分が会得する法会というものに参加する。

それから1月5日に牛玉加持会ごおうかじというのがありますけれど。これは浅草寺の法印をおでこに当ててもらうという。災難除けですね。柳の枝のところに挟んである柳の御影というのがありますけど、そのお札をこの日に授かることができるわけなんです。そこに観音様の、ご本尊の木版刷りのスタンプが押されているということ。柳は強くしてしなりがいいんでしょうねえ。

知られざる行事
温座秘宝陀羅尼会



それから1月12日～18日、温座秘宝陀羅尼会というのがある。温座っていうことは、あったかいですよ、座しているところが。何でかっていうと、湯たんぽじゃなくて。168座あって、1座が終わるとすぐ次のお坊



図1：昔の銭塚地藏堂。2019年に再建



図2：年賀切手より「宝船」

さんが1座と、続けてお経をあげるので座が冷める暇がない。ずっとお経をあげるんです。

その時に仏具なんかを積み重ねて、最後にばあんと音を立てて崩れると同時に、裏の方から鬼が、二人って言うていいんですかね、二匹って言うんですかね。出てくるんですよ。松明持ってわーっと走り回る。本堂の階段を駆け下りて、お香を頭にばあっとかけてね。その鬼はみんなお面じゃないんですから、隈取で描いてある。最終的には銭塚地藏(図1)に松明を持って行って、たたきつけたりするんですけど、その端切れを奪い合う。

今、陀羅尼会のこと知らない人が多いので、18日の夜、写真撮りに来ている人少ないですから、チャンスですよ。浅草寺だけで全部やるの大変なんで、仲見世にも手伝ってもらって、青年部員が一人、やってますよ。うちのせがれも去年から、隈取して、やりましたよ。

一富士二鷹三茄子
だけじゃない初夢



そういう行事以外に、ごく一般の話が面白いだろうから、そっちの話もしましょう。さっき元日の話をしましたね。元日というのは江戸の人はほとんどみんな、仕事しないんです。元日に仕事しなきゃならない職人なんて大して腕が良くないんだろうと言われるくらい。元日に公に働いている商売というのは、お宝売り。お宝っていうのは紙に木版で刷ってある宝船(図2)なんです。七福神が乗っていて。これを枕の下に敷いて寝ると初夢が見られるというね。「一富士二鷹三茄子」、



図3：七草がゆ
(港区愛宕神社
で振舞われた
もの)

ここまではみんな知ってるんですね。四から知らない人が多いですよ。四番目は四扇、扇子。五煙草、煙草が出てくるんです。六座頭、六番目は、目の見えない按摩さんのことを座頭っていいですよ。六番目までであるんです、実は。一富士とは無事のこと、無事を富士に引っ掛けてるんです。二鷹は高みに上る。三なすび、これは成せば成るのなすびですね。四扇、扇というのは末広りのこと。五煙草、煙草の煙というの上昇気流に乗るってことですね。六座頭ってのは、頭を丸めてるんで、お毛が無い、怪我が無いという洒落ですね。これが良いとされている初夢の六つです。

それから1月2日、姫糊始めというのがあります。女性が新年初めて洗濯をしたり、あるいは張り板、糊を利かして板に張るじゃない、ああいうことを年の初めにやるのが1月2日。

それから1月の7日。誰でも七草がゆ(図3)というんですけど、実は七草爪というものもありまして、新年になって最初に爪を切っているのが七草の日と言われてます。この時は七草をお湯の中につけて、そこに手足を浸けて、爪を柔らかくして切る。そうすると風邪を引かないといわれる。何の根拠があるのかよく分からないけれど。

包丁で鏡開きをしてはいけない理由

それから鏡開きというのが10日の日にあります。どこの家でも、鏡開きは包丁使っちゃいけませんって言われてますでしょ？ 何

で刃物を使っちゃいけないのかっていうと、あれは武家の風習なんですね。武家が正月に武具開き、自分の家に先祖代々伝わっている鎧兜を箱から出して見せる。お客さんに見せて、常に備えていますよという。そこに供えるのが鏡餅ですから、刃物を入れると切腹を意味することになるんですね。だから木槌で割ったりすることになるわけです。

よく時代劇で「切餅」なんて言いますけれど、小判が二十五両紙包みになってるの。それをひねるとガシャガシャって出てくる。でも本当の切餅は丸くないんですよ。一分銀だとか一分金、一朱銀とかね。角の銭、あれを寄せ集めて、紙包みにすると確かに切餅になる。丸いのは、小判一枚ってのは、それ一枚で買い物しようと思ってもなかなかお釣りもらえないんですよ。だからつまり、一分ってのは一両の4分の1ですから。一分の4分の1が一朱ですからね。そういう小銭でもって四角いもの、長方形のものを積み上げて紙に包むと、切餅ということになるんですね。

それから1月の15日になりますね。小豆粥、食べてるお客さんいますか？ よくお砂糖をちょいと入れたりなんかして食べるのもあって、あれが嫌だっている人もあるんですけど。なぜこの小豆を入れるのかっていうと、小豆の赤い色は邪気を払うというふうに言われてるんですね。

女正月に藪入り忙しい人を労う正月

で、七草までが松の内ですけど、15日のことを小正月、小さい正月と言うんですね。正月中に一番働くのは女性ですね、男の人より働くということで、忙しかつた女性を労う正月でもあるんで、女正月とも言うんです。みんなで一つのところに集まって宴会をやるという歴史もありますよ。男は外に出して、一切中に入れないでやるのもあります。まあ、いろいろな方法があるんですけどね。



図4：雪の浅草寺本堂

7月の15日ってのはお中元でしょ？ 1月の15日は上元です。上元、中元、下元とあるんですね。上元は灯笼を立てて、夜祭をする。中元というのは、まず半年間の無事に感謝して、両親に本当は食べ物を送ったんですよ。それが後に、目上の人に物を贈るという風に変っていくんです。10月15日は下元。これは先祖の霊を祭る行事ですけども、それと同時に収穫祭、感謝祭みたいなものでもあるんです。これが三元といわれる。麻雀の大三元が元で、中国から来てるみたいですよ。

1月の16日になると藪入りというのがあ。これは住み込みで働いている小僧さんたちがみんな自分の田舎に帰れるってことなんですけども。なぜ藪入りって言葉になるのかっていうと、藪とは草深い所ですね。だから地方に戻ることを表現してるんです。

それから二十日正月。これは正月の最後、お正月はこれで終わるという。地方によってかなり差があって、やらないところは本当にやらないって話を聞いています。これで1月がやっと終わり。まあ1月は盛沢山なんですけど、まだ十一月が残ってますんで。

石工の庭にひいらぎが植えられる理由

いよいよ二月に入ると節分会ですね。節分

の時ってというのは「鯛の頭も信心から」。ひいらぎで鯛の目を刺して、入口の方に飾っておくと、悪気を払うという風に言いますけども。鬼が鯛の匂いを嗅ぎつけて来るんですね。それで鯛を取ろうとすると、ひいらぎのトゲトゲで目を突っついたりする。それで鬼が逃げるといことらしいです。匂いで寄せつけると痛い目に遭わせちゃうという。

あの、例えば石工さんっているでしょう、カチカチ灯笼彫ったりとかする。あの人たちの使っている玄能

という金づちの大きいのがあるんですけどもね、この玄能の柄というのは、ひいらぎが一番適しているらしいんですよ。固いわりにしなるんですって。だけどやっているといつ折れちゃうかわかんないじゃない。そういう時のために石工さんの庭にはひいらぎが植えられているんです。これが庭の表鬼門の方角、北東ですか、にひいらぎが植えてある。で、裏鬼門、南西の方角に南天の木を植えるそうです。ひいらぎと南天、これが付きものみたい。縁起がいいらしいんですよ。

ずっとね、緑と赤ってクリスマスに似てるよね。ひいらぎはクリスマスも使いますよね。偶然なのか何だかわかんないけど。クリスマスの赤ってのは、キリスト教で血のことを表現するらしいけど。で、緑がもみの木。常緑樹、生命力を表すらしい。そこに白がつくと純潔ということらしいです。キリストの十字架ってのは茨の冠を被せられ、赤い実は血を表すと、そういう話があるんですよ。



図5：淡島堂

おはぎとぼたもち
「北窓」って知ってる？



2月8日は針供養。これ、浅草でも淡島様のところでやります。淡嶋神社というのが和歌山県にあるんですけど、そこを分家みたいにお勤請したのが浅草の淡島堂(図5)です。裁縫などする人が、豆腐に針を刺して針供養っていうんですけど、和歌山の淡嶋さんっていうのは違うんですよ。あそこ、漁師町でね、釣り針刺してるんです。だから江戸でいうとお裁縫なんですけどね、向こうでは漁師さんの儀式らしいですよ。針はいつも固いものばかり刺してると疲れるだろうから、柔らかい豆腐で楽しんでね、ってことですよ。その時に足袋屋さんとかか仕立て屋さんとか、袋物屋。それから中には生地印をつけていく人いるじゃないですか、へらみたいので。あれはよく象牙なんかでやるんで、その象牙職人なんかも供養するんです。

あとはそうですね、2月の15日、涅槃会。涅槃会というのは悟りの境地のことですけど、お釈迦様が北インドとネパールの国境のところで亡くなった日です。お釈迦様の遺徳を偲ぶ感謝の日みたいなもんですな。

それからおしなさま、いや、お雛様。あの、ししもちってあるでしょ、菱餅。あれが白と緑とピンクだったりするじゃないですか。江戸時代にはピンク入ってないんですよ。江戸時代には緑、白、緑なんです。ピンクは明治以降に入ったもので、一つにはしし、菱という池や川に自生する植物があるんですよ。これが三角形で固くて菓草でもあったんですけど、身持ちが固いという洒落なんですよ。女の子のお祭りで、身持ちが固くて子孫繁栄という。それもあって緑だったんでしょうね。

大体この頃の食べ物という、おはぎ、ぼたもちなんていうのがありますけどね。おはぎっていうのは秋に食べる萩の餅ですよ。ぼた餅っていうのは牡丹餅、春に食べます



図6:「廊中東雲」歌川広重画(安政4(1857)年)

ね。これ、全く同じもんじゃないですか。だけど季節によって萩、牡丹とに分かれている。実は冬は、お砂糖がちよっと載って「北窓」って言ったもんなんですよ。今、北窓出してるお菓子屋さん、少なくなっちゃったんですけど、好きだったんです。北の窓から見ると地面のあんこの上に雪が載っているっていう、かっこいいでしょ？ そういうのをなぜやらねえんだって和菓子屋の友達に言ってるんです。流行ると思うけど、なかなかやらないんですよ。

江戸の浅草の花見は
隅田川・観音裏・吉原



それからこの季節でいうと、花見。上野の花見というと今でも大変な人が出る。もともと上野というのは徳川家の菩提所でもありますし、あそこは山同心という特別な同心がいる。その山同心から敷物を拝借して花を愛でる、だから大騒ぎなんかすると怒られちゃ

う、「静かに！」って。そこ行くと浅草や飛鳥山なんて何やろうと自由ですから。三味線を弾こうと太鼓をたたこうと踊りをしようと、ひどい奴になると、ちょっと陽気のいい春先のこと、ふんどし一本になって踊ってたっていう。

吉原の花見なんてのも出てくる。芝居なんかにも出てきますけど、桜はあそこは無いんです。花見の時期だけ、山の中から一番様子のいい桜を持って来て植えるんです(図6)。散るとまた、山に持って行って返す。ここは主に夜桜ですな。昼間からあまり吉原でうろうろしてると変な奴ですから。たいがい夜桜見物。だから浅草の花見と、上野の花見と。同じ浅草でも隅田川堤、あるいは観音裏のところには千本桜というのがありましたでしょう。それから吉原と。お花見全部、様子が違うんです。吉原はお花見の時だけは女性もずいぶん行ったそうです。深編笠を被って行ったりする。

3月中はみんな綿入れを着てますね。4月1日になると袴はかまから綿わたを抜くんですな。普通の袴にする。だから四月一日さんと書いてワタヌキさんという名字の人がいますね。

「おシャカになる」の
語源はまさかの…



それから4月の8日、花祭り。お釈迦様の誕生日、皆さん知ってると思いますけど。この日がまたいいんですよ、食べ物もいいですね。桜餅もあるし、「いただき」という餅ある。蓮の花みたいな形してるところに、あんの玉がポンと乗っかってるんだな。蓮の花びらに露をいただいて…っていう風情で、い



図7:長命寺桜餅



図8:桜の浅草寺伝法院

いでしょ？

桜餅はまあ、長命寺の桜餅が有名ですけどね(図7)。大体、葉っぱと一緒に食べるんだって子供のころから言われてました。長命寺の何枚も貼ってあるんですね、あれ、個人的には1枚でいいと思うんですけどね。子供の時は葉っぱ食べるので苦労しました。

花祭りの日には甘茶をかけるんですね。お釈迦様が誕生した時に、天に住む竜がいるんですけど、喜びのあまり甘露の雨を降らせたっていう。それが甘茶につながるんですよ。これ、ただ飲むだけじゃなくて、お習字をやってる人たちは、いただいてきた甘茶で墨を磨って書くと字がうまくなると言われているんです。それから「虫よけの呪い」と書くんですよ。虫封じだとか、そういうことになるんでしょうね。

あとね、そうだな、職人が仕事していて、ちょっと失敗したりすると「おシャカんなっちゃった」なんて言うでしょ。あのお釈迦って、どっから来てるか知ってます？ 刀鍛冶やなんかの鍛冶屋さんが、熱するじゃないですか。熱しすぎてダメになっちゃって。金物としてね。火が強かったわけですよ。火が強かった(ヒガツヨカッタ)が、四月八日(シガツヨウカッタ)になるんです。洒落なんだけどね。そこから来てるんです。ほんとにそうなんです。僕、この話聞いた時に、すげえな、遠回しな洒落だなと思ったんですけど。(次号に続く)

ウチのイチオシ!

甘味みつや

みつ かき氷 あんず



全国で数軒しか生産していない貴重な天然氷を昔ながらの自動式かき氷機で削り、旬の果物などを丁寧に炊いたみつやのみつで合わせる「みつ かき氷」。中でもイチオシは「あんず」。毎年長野県千曲の農園でスタッフ自ら収穫したあんずを追熟し、こだわりの喜界島さび糖でシロップ煮にしているそう。「かき氷は温かい加賀棒茶と塩昆布と一緒にご提供しており、口休めになると果物の香りや甘さなどがより楽しめます。一つ一つ手で丸めた白玉とかき氷のセットも人気ですよ」とディレクターの久大保陽さん。

お店の紹介は P.24

地図 P.14-B2

電 03-6802-7710

営 平日12:00~17:00
土日祝11:00~18:00

住 台東区浅草1-32-13
松村ビル1F

(LO各30分前、売次第閉店)
休 不定

https://www.instagram.com/kanmi_mitsuya/

鮎 佐

つくだ煮



文久2(1862)年創業、佃煮の元祖と呼ばれる鮎佐。創業者・大野佐吉は釣りに出て時化で佃島に流された際、漁師から振る舞われた雑魚の塩煮に感動。下総(千葉県)出身だったこともあり、地元の名産品・醤油を取り入れたのが、今日の佃煮につながっているそう。「創業から一切製法は変わっておらず、令和の今日でも電に薪をくべています。キリッとした醤油味のつくだ煮は、白米やお酒の旨味を引き立たせ、白米につくだ煮をのせて、お湯をかけて頂くお茶漬もお勧めです」と五代目大野佐吉さん。

お店の紹介は P.30

地図 P.18-B3

電 03-3851-7043

営 9:00~17:00

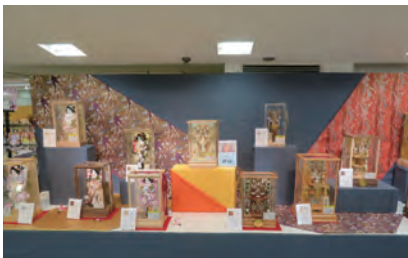
住 台東区浅草橋2-1-9

休 日・祝

<https://www.funasa.com>

久 月

羽子板・破魔弓 (銘木シリーズ)



天保6(1835)年創業の人形の久月。生まれた子が初めて迎える正月を祝って、女の子には羽子板、男の子には破魔弓を贈る風習が江戸時代からあったそうです。「羽子板は魔を打ち返し、破魔弓は魔を破る縁起物です。銘木シリーズは現代のインテリアに合うように、木の温かみを大切にしましたシリーズ。正月を彩る縁起物として楽しんで頂ければ幸いです」と八代目代表取締役兼販売員の横山久俊さん。「浅草から2駅程離れておりますが、日本の伝統的な物を幅広く取り扱っております。是非、足を伸ばしてみてください」

お店の紹介は P.30

地図 P.18-B2

電 03-5687-5176

営 9:15~17:15
(11/1~4/30は9:15~18:00)

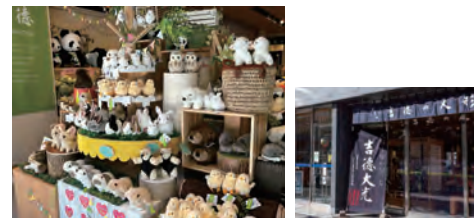
住 台東区柳橋1-20-4

休 無休

<https://www.kyugetsu.com/shop/13647>

吉 徳

衣裳着親王飾り「春窓雛」



イチオシは今から来年の春が楽しみになるこの商品。「宮中の窓から外を眺めると、縁起の良い松林に長寿の象徴である鶴が舞い上がる姿が見えます。明るい木目の台と屏風、「顔がいのち」の表情と明るい色使いは和室・洋間を問わずに映えて、伝統や気品も感じられ、一目惚れしていただけるお客様が増えています」と本店店長の松本裕司さん。「吉徳は伝統的、現代的、様々な人形を取り揃えており、実はぬいぐるみでも長い歴史があり、種類も豊富です。日本の文化の再発見に、是非ご来店ください」

お店の紹介は P.29

地図 P.18-B1

電 03-3863-4419

営 9:30~17:15
(1/2~5/5は9:30~18:00)

住 台東区浅草橋1-9-14

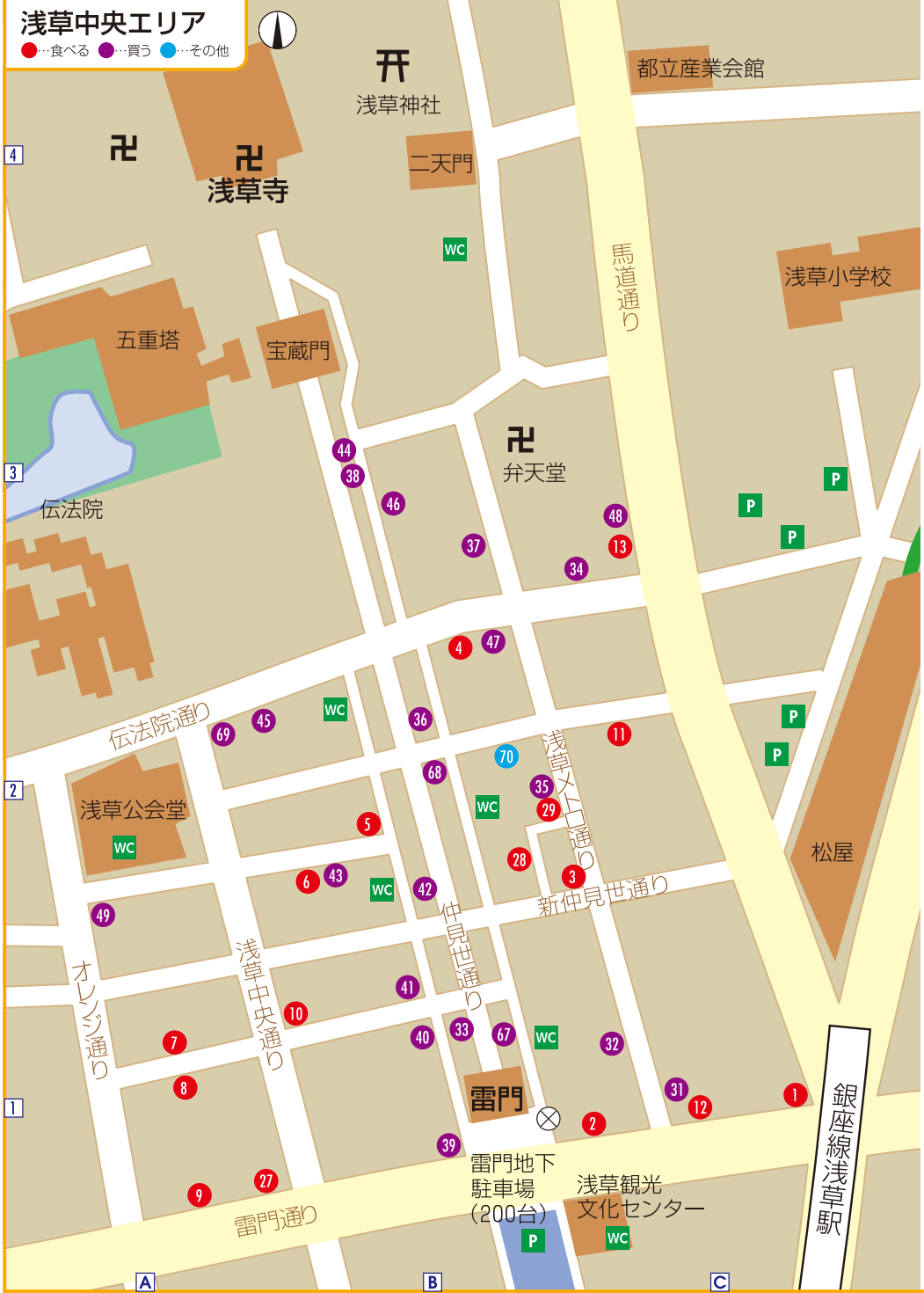
休 不定休
(1/2~5/5までは無休)

<https://www.yoshitoku.co.jp>



浅草寺境内石碑ガイド 浅草寺境内の主だった句碑・顕彰碑

- 1 川口松太郎の句碑**
「生きるということは、むずかしき、夜寒か」と刻む。
- 2 久保田万太郎の句碑**
「竹馬やいろははほへとちりちりに」と刻む。
- 3 市川猿翁の句碑**
「まだ身にそはず衣がえ」という三代目市川猿之助の句を刻む。
- 4 河竹黙阿弥顕彰碑**
歌舞伎狂言作者・河竹黙阿弥を顕彰して、台東区が建立した。
- 5 中村吉右衛門の句碑**
「女房も同じ氏子や除夜詣」と刻む。
- 6 並木五瓶の句碑**
「月花のたわみころや雪の竹」と刻む。
- 7 山東京伝机塚の碑**
江戸時代後期の戯作者・山東京伝の愛用した文机が埋められた上に建てられたとされる碑。
- 8 釘供養碑**
- 9 団十郎「暫」の像**
九代目市川團十郎の歌舞伎十八番「暫」の像。
- 10 映画弁士塚**
無声映画時代の名弁士たちを記念して建立。
- 11 半七塚の碑**
捕り物小説の生みの親である岡本綺堂を記念して建立。
- 12 三匠の句碑**
宗因・芭蕉・其角という三人の佳句を刻む。
- 13 正岡子規句碑**
「観音で雨に逢いけり花盛」と刻む。
- 14 芭蕉像と句碑**
江草寺御本尊の聖観世音菩薩が檜前浜成・竹成兄弟に網得された際、安置されたのが槐の木。切株。以来、絶えることなく自生する緑の深い木である。
- 15 旧五重塔跡碑**
- 16 浅草寺の神木-いちよう**
源頼朝が浅草寺参拝の折、挿した枝から発芽したと伝わる。昭和20年の東京大空襲で多くを焼失したものの、戦災をくり抜けた神木として大切にされている。
- 17 夫婦狛犬**
二体並び寄り添う一對の狛犬。「良縁」「恋愛成就」「夫婦相合」の願いを込めて祀っている。
- 18 三柱の石碑**
浅草神社に祀られている三神、檜前浜成・竹成、土師中知の名が刻まれている。
- 19 神木-槐の木**



中央部会員店

- 1 神谷バー
- 2 雷門 三定
- 3 浅草うまいもん あづま
- 4 名代らーめん 与ろみ屋
- 5 釜めし 麻鳥
- 6 炭火会席 蔵
- 7 お好み焼き 一丁目
- 8 和風居酒屋 魚菜
- 9 天ぶら 葵丸進
- 10 三角
- 11 鉢の木
- 12 尾張屋
- 13 弁天山 美家古寿司
- 27 川松
- 28 甘味処 彩夏
- 29 甘味 みつや
- 31 手焼きせんべい 和泉屋本店
- 32 手焼きせんべい 和泉屋観音通り店
- 33 浅草きびだんご あづま
- 34 早田カメラ
- 35 組紐 桐生堂
- 36 手焼きせんべい 和泉屋仲見世店
- 37 てめぐい ふじ屋
- 38 あげまんじゅう 浅草九重
- 39 常盤堂雷おこし本舗
- 40 刃物 かね惣
- 41 舞扇 文扇堂雷門店
- 42 舞扇 文扇堂仲見世店
- 43 ミドリ屋
- 44 木村家本店
- 45 よのや櫛舗
- 46 よ兵衛
- 47 和装履物 浅草辻屋本店
- 48 浅草の保健室ネオ
- 49 江戸金銀工芸もり銀
- 67 甘味 みつや 仲見世通り店
- 68 舌番屋
- 69 カリカチュア・ジャパン
- 70 村石電気工事



北部会員店

- 14 レストランにいど・だもおれ
- 15 料亭 都鳥
- 16 すし処 清司
- 50 祭礼用品 宮本卯之助商店本店
- 51 株式会社製菓川喜多

山谷堀



山谷堀はかつての吉原への道筋の一つ。柳橋で猪牙船を仕立てたお大尽は、隅田川を上って今戸橋から山谷堀を抜けて吉原へ通った。現在、堀は埋め立てられたが、堀端の桜は当時の名残を残し、今日も桜の名所として知られている。

浅草富士浅間神社



毎年7月1日の富士の山開きで有名な浅間神社(せんげんじんじゃ)は、地元の人から「お富士さん」の愛称で親しまれている。江戸時代に各地に広がった富士浅間神社の信仰だが、浅草富士浅間神社は静岡県富士市から元禄年間に分社したもの。本殿外観は平成9年から10年の改修工事によって漆喰塗りが施されているが、内部には明治11年に建築された土蔵造りが残されている。毎年5月最終土日と6月最終土日に植木市が開かれ、浅草の年中行事として賑わいを見せる。

待乳山聖天



待乳山聖天(まつちやましょうてん)は、正しくは待乳山本龍院という。境内のいたるところに大根と巾着を組み合わせた比翼紋があるが、これは健康増進などを祈願する聖天信仰の現れとされる。毎年恒例の大根まつりには多くの信者が訪れる。

昔は待乳山の手前に隅田川が流れ、東都随一を誇る眺望の名所として知られた。現在はその眺めは見られないが、江戸末期に作られた長さ25メートルに及ぶ築地塀などが往時をしのぼせる。



- ### 西部会員店
- 11 尾張屋
 - 17 常寿司
 - 18 天麩羅 中清
 - 19 Bistro Kinukawa
 - 20 居酒屋 TAKEYA
 - 21 すき焼 浅草今半
 - 22 どげう飯田屋
 - 52 デイジー
 - 53 渡辺眼鏡商店
 - 54 足袋・祭用品 めうがや
 - 55 祭礼用具 宮本卯之助商店西浅草店
 - 56 ヤマダの家具
 - 57 今昔きもの龍巳
 - 58 まつもと履物店

江戸たいとう伝統工芸館



ひさご通り内にある洒落たたずまいの江戸たいとう伝統工芸館は、台東区の手仕事に生きる職人さんの技術・技法を紹介する文化施設。実演のスケジュールは、ホームページをご覧ください。
<http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/shigoto/jibasangyo/kogeikan/index.html>

久保田万太郎誕生の地



久保田万太郎は、明治22年11月7日にこの地に生まれ、大正3年慶応義塾大学文科を卒業するまでの26年間在住。昭和38年5月6日に永眠するまで、明治・大正・昭和の三代に亘り、下町の義理と人情を描写した小説・戯曲等を発表し、文学・演劇界に多大な功績を残した。




- ### 南部会員店
- 23 シーフードレストラン 月見草
 - 24 ロシア料理 マノス
 - 25 うなぎ 初小川
 - 26 茶寮 一松
 - 27 川松
 - 30 魚熊水産
 - 59 和菓子 龍昇亭 西むら
 - 60 市川とうふ店
 - 61 木彫 宗舟
 - 62 書道用品 宝研堂
 - 63 岡田屋布施

駒形堂




駒形堂(こまんどう)は、浅草寺のご本尊が隅田川から示現され、上陸された地に建てられたお堂で、浅草寺の発祥の地ともいえる。現在は、ご本尊として馬頭観音が祀られている。

岡崎屋勘六(勘亭流元祖)の墓



西浅草一丁目にある清光寺の境内に、勘亭流の元祖といわれる岡崎屋勘六(文化2年2月3日に59歳で没)の墓がある。勘六は、延享3年に江戸に生まれ、日本橋で書道塾を開いていた。号を勘亭といひ、安永8年に中村座新春狂言の看板を書いたことが評判を呼び、芝居文字として勘亭の書いた文字(勘亭流)が主流となったという。

はなし塚



田原町駅近くの本法寺境内にある落語ゆかりの珍しい石碑。大戦中に各種芸能団体が演題を自粛した際、落語界でも演題の花柳界・酒・妾などに関する落語53種を禁演落語とした。はなし塚は、中に含まれた名作と先輩の霊をうやむやに建立され、この塚の下には禁演落語の台本が納められた。戦後の昭和21年9月には、塚の前で禁演落語復活祭が行われた。

浅草橋エリア

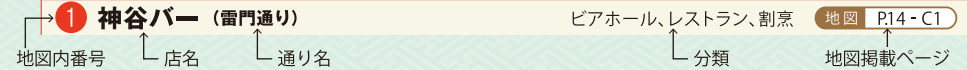
●…買う

浅草橋会員店

- 64 吉徳の人形 浅草橋本店
- 65 人形の久月 浅草橋総本店
- 66 鮎佐



浅草橋の会・会員店紹介



1 神谷バー (雷門通り)

ビアホール、レストラン、割烹 地図 P.14-C1



明治13年創業、明治45年「神谷バー」と屋号を改めた日本で最初のバー。名物デンキブランとともに皆様にご愛顧頂いております。お一人様には1階が、グループのお客様には2階レストランがお勧めです。

電 03-3841-5400

住 台東区浅草1-1-1

営 11:00~21:00 (L.O 20:30)

休 火曜日

<http://www.kamiya-bar.com/>



2 雷門 三定 (雷門通り)

天ぷら・和食 地図 P.14-C1



創業以来江戸前天ぷらの味を守り百六十余年。胡麻のきいた黒っぽい天ぷらですが、あと味が軽いのが身上です。店も仲見世の入口にあり、ご散策に大変便利。季節ごとになる旬の天ぷらに江戸の粋を御堪能下さい。

電 03-3841-3200

住 台東区浅草1-2-2

営 11:00~20:30 (L.O 20:00)

休 木曜日(変更あり)

<http://www.tempura-sansada.co.jp>



3 浅草うまいもん あづま (新仲見世通り)

和食・寿司・甘味 地図 P.14-B2



なつかしい味の下町料理(和食、江戸前寿司、オムライス、自家製甘味…)を是非お楽しみ下さい。二階の掘りごたつ席での御宴会も大好評です。

電 03-3841-0190

住 台東区浅草1-32-1

営 平日11:00~21:00
土日祝10:30~21:00

休 不定休

<http://aduma.tokyo>



4 名代らーめん 与ろる屋 (伝法院通り)

らーめん 地図 P.14-B2



醤油らーめん発祥の地、浅草で地元の方々に愛されて30年。豚骨・鶏ガラをベースに厳選した煮干・かつお節・昆布で仕上げほんのり柚子の香りの和風らーめんです。下町情緒と共に昔懐かしい醤油らーめんをお楽しみください。

電 03-3845-4618

住 台東区浅草1-36-7

営 11:00~21:00 (L.O 20:30)

休 無休

<https://www.yoroiya.jp>



5 麻鳥 (公会堂横通り)

釜めし・串焼き 地図 P.14-B2



新潟県下田町より直送の100%コンヒカリを新鮮な素材と共に一釜づつ心を込めて炊き上げます。地鶏串焼も福島伊達鶏を紀州備長炭で丁寧に焼き上げます。大切な方々のおもてなしにどうぞごゆっくり御賞味下さい。

電 03-3844-8527

住 台東区浅草1-31-2

営 平日11:00~21:30
日祝日11:00~21:00

休 無休

<https://asa-kusa.jp/asadori>



6 蔵 (公会堂横通り)

炭火焼会席 地図 P.14-B2



旬の素材を使ったお節めの炭火焼会席コース、牛肉は和牛の特選焼物コース、アラカトでは三陸産の鮑や伊勢海老などもございます。季節によって変わる焼魚も絶品です。焼物は全て炭火焼きで召し上がって頂きます。

電 03-3847-1129
住 台東区浅草1-30-10
営 11:30~22:00
休 無休
https://asa-kusa.jp/kura



7 一丁目 (雷門柳小路)

お好み焼き 地図 P.14-A1



新しい味の発見ですお好み焼きをわさび醤油・ポン酢・抹茶塩などでお召し上がり下さい。もちろんソースも自家製ですから食べ比べてみては? 当店の材料は全て純国産品です。

電 03-3845-7566
住 台東区浅草1-21-2
営 平日12:00~15:00/
17:00~20:00
土日祝12:00~20:00
休 月曜日ただし祭日の場合は火曜日
https://www.asakusa.gr.jp/shop/icchome.html



8 魚菜 (雷門柳小路)

和洋居酒屋風レストラン 地図 P.14-A1



魚菜ではテレビでも紹介された三陸産のアワビの肝ソース焼きが大人気です。一品およびコース料理もございます。大小のご予約を承っております。今話題の焼酎、黒糖・芋・麦・米も取り揃えております。

電 03-3842-1919
住 台東区浅草1-17-9
営 平日17:00~23:30
日祝日12:00~22:30
休 無休
https://www.asakusa.gr.jp/shop/uosai.html



9 葵丸進 (雷門通り)

天麩羅、季節料理、寿司 地図 P.14-A1



「旬の肴に天麩羅でちよいと一杯」季節料理に天井・天麩羅、お椅子席・お座敷席・個室席。お好みのスタイルでおくつろぎください。浅草に行きつけの天麩羅屋はいかがですか。

電 03-3841-0110
住 台東区浅草1-4-4
営 11:30~21:00(LO20:00)
休 第2・4月曜日
(祝日の場合は翌日)
http://www.aoi-marushin.co.jp/



10 三角 (浅草中央通り)

ふぐ 地図 P.14-A1



明治35年(1902)の創業以来、日本料理店として気取らず下町の味を守りたいと努力しております。ふぐさし、ふぐちり、煮凍り、唐揚、ひれ酒、白子、特に11月頃からの白子焼、白子刺身は大人気の逸品です。是非一度ご賞味下さい。

電 03-3841-7650
住 台東区浅草1-20-7
営 平日12:00~14:30/
16:30~21:30
土日祝12:00~21:30(LO20:30)
休 水曜日
http://asakusa-sankaku.com/



11 鉢の木 (公会堂東通り)

甘味・喫茶 地図 P.14-C2



浅草寺に詣で、心躍る浅草の賑わいを巡る。熱気に煽られしばしの休息。あんみつ、おしるこ、いそべ巻き…。甘味を口にホッとひと息。夏のかき氷も人気です。くつろぎの和の空間にお立ち寄りください。

電 03-3843-6755
住 台東区浅草1-34-7
営 11:30~18:00
休 水曜日
https://www.asakusa.gr.jp/shop/hachinoki.html



12 尾張屋

日本そば 地図 P.14-C1, P.16-C1



幕末の創業以来、地元浅草の方々、観音様参詣の皆さまに広く愛されてきた老舗です。そばは、信州を中心に厳選した国産の一番粉、本かつお節のつゆ、胡麻油で揚げた天ぷらと、三位一体の美味しさです。

電 03-3845-4500(本店)
03-3841-8780(支店)
住 台東区浅草1-7-1(本店)
台東区浅草1-1-3(支店)
営 11:30~20:00(LO) 休 金曜日(本店)、水曜日(支店)
https://g615000.gorp.jp/



13 弁天山 美家古寿司

寿司屋 地図 P.14-C3



創業慶2年(1866年)。酢飯、仕事を施した寿司ダネ、新鮮な山葵と煮きり醤油、この4つのバランスによって寿司の美味しさを最大限に引き出す。江戸前すしの本来の仕事、にぎり、ツメ、ツケ、酢メ、昆布メなど、古典的技法を今もなお頑に守り続けております。

電 03-3844-0034
住 台東区浅草2-1-16
営 12:00~14:30(LO 14:00)
17:00~21:00(LO 20:00)
休 月、第3日曜日
https://benten-yama-miyakosushi.com



14 にいど・だもおれ (浅草猿若町市村座跡)

レストラン 地図 P.15



昔の市村座の跡にあるお店です。夜は新鮮な魚介類のお料理で(活タラバガニ等)、お仲間だけの空間をお楽しみ下さい。

電 03-3874-7561
住 台東区浅草6-18-13
小竹猿若町レジデンス1階
営 ランチ11:00~14:00、ディナー
1日1組予約のみ17:00~22:00
休 日祝
https://www.asakusa.gr.jp/shop/nidodamore.html



15 都鳥 (浅草観音裏)

料亭 地図 P.15



江戸開府四百年、だからこそ江戸の昔を体験してみませんか。花柳界の楽しさをもっと知って頂きたいと、江戸の遊びのコースを考えました。お客様には和服でお越し頂くなど、一緒に御趣向を楽しみませんか。

電 03-3874-2175
住 台東区浅草3-23-10
営 18:00~ 要予約
休 土日祝日
http://asakusa-miyakodori.com



16 すし処 清司 (浅草観音裏)

寿司 地図 P.15



すしは日本の食文化。にぎる人の心がお客様に通ってこそ本物だと思います。特に江戸前の小肌、蛤、鰯は逸品です。鮪はもちろん本まぐろです。一味も二味も違うお寿司を是非ご賞味くださいませ。

電 03-3872-7275
住 台東区浅草3-22-12
営 17:00~23:00
休 日曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/seiji.html



17 常寿司 (たぬき通り)

寿司 地図 P.16-C1



屋上の鮓屋が提供していた昔懐かしい鮓。その味を、今も変わらず作り続けています。肩肘を張らずに、気軽に江戸前寿司を楽しみたい方、お褒め致します。是非お越し下さい。

電 03-3844-9955
住 台東区浅草1-15-7
営 11:30~21:00 休憩なし
休 月曜日



<https://www.asakusa.gr.jp/shop/tsuneshushi>

18 中清 (オレンジ通り)

天ぷら会席 地図 P.16-C2



数寄屋造りの離れ座敷で昔から変らぬ味の江戸前天麩羅をごゆっくりご賞味下さいませ。

電 03-3841-4015
住 台東区浅草1-39-13
営 平日11:30~14:00, 17:00~21:00 土日祝11:30~20:00
休 火曜日、第2、第4水曜日
<http://www.nakasei.biz/>



19 Bistro Kinukawa

フランス料理 地図 P.16-B1



新鮮な魚料理と契約農家直送の有機野菜をお楽しみいただけるフレンチのお店です。ワインはもちろん、焼酎や日本酒もごございます。下町ならではの居心地の良い空間で、素材にこだわった「おさかなフレンチ」をご堪能下さい。

電 03-5828-3313
住 台東区西浅草2-16-4
営 平日12:00~15:00, 17:00~22:00
休 火曜日

20 TAKEYA (浅草ひさご通り)

居酒屋 地図 P.16-B3



昔からひさご通りは六区興行街から千束吉原に向かう人で賑わう商店街でした。当店はお子様からお年寄りまで、気楽に入れて来て良かったと思われるお店を、従業員一同心がけております。大小予約承ります。

電 03-3841-6555
住 台東区浅草2-25-5
営 平日12:00~23:00 土日12:30~14:00, 17:00~23:00
休 月曜日 <https://www.asakusa.gr.jp/shop/takeya>



21 浅草今半 (国際通り本店)

すき焼、しゃぶしゃぶ、日本料理 地図 P.16-B2



厳選された黒毛和牛と秘伝の割り下で、焼くように煮るすき焼が浅草今半流。ランチタイムサービスの「明治すき焼井」と「ステーキ井」は、浅草の隠れ銘井とも…。納得の味をお届けいたします。

電 03-3841-1114
住 台東区西浅草3-1-12
営 11:30~21:30 (LO 20:30)
休 年中無休



<https://www.asakusaimahan.co.jp/>

22 どぜう飯田屋 (合羽橋本通り)

どぜう料理 地図 P.16-B2



磨き込まれた籐敷きに胡坐をかいてどぜう鍋一刻文豪気分です

電 03-3843-0881
住 台東区西浅草3-3-2
営 平日 11:30~15:00, 16:00~21:00 (LO 20:30) 土日祝 11:30~15:30, 16:30~21:00 (LO 20:30)
休 水曜日、祝物日は前後振替 <https://dozeu-iiidaya.com>



23 月見草 (浅草並木通り)

シーフードレストラン 地図 P.17-C2



魚介類を中心とした旬の食材を取り入れたシーフードレストラン。一番の人気を誇るのは鮑のステーキ、水槽の中で生きているものをすぐに調理し丸ごと一つを鮑の肝で作った自慢のオリジナルソースをかけてどうぞ。

電 03-3841-8949
住 台東区雷門2-11-8
営 11:30~22:00
休 無休



<https://asa-kusa.jp/tsukimiso/>

24 マノス

ロシア風レストラン 地図 P.17-B2



「ロール・キャベツ?いや!キャベツ・ロールです」。創業以来、作り続けて35年。元祖キャベツ・ロールといえば浅草マノス。料理は良い素材と美味しいものを作るという気持ち! 今一度、おた召しあれ~!

電 03-3843-8286
住 台東区雷門2-17-4
営 11:30~22:30 (LO 21:00) ただし平日15:00~16:30準備中
休 火曜日 <https://www.asakusa.gr.jp/shop/manos>



25 初小川 (雷門仲通り)

鰻蒲焼き 地図 P.17-B2



明治40年の創業以来継ぎ足し使っている辛口のタレを使った鰻は、注文を受けてからさばき、蒸してから焼く。江戸前風七輪の炭で焼いた鰻はムダな脂が落ち、身もふつとやわらかで上品な味わいです。

電 03-3844-2723
住 台東区雷門2-8-4
営 平日12:00~14:00, 17:00~20:00 土日祝17:00~20:00
休 不定休 <https://www.asakusa.gr.jp/shop/hatsugawa.html>



26 茶寮 一松 (万太郎横町)

会席料理 地図 P.17-B2



ご宴会に、季節の色で盛り付けされた茶寮一松での会席料理はいかがでしょう。お昼のミニ会席や料亭ウエディングプランなども用意しております。しばし浮世を離れ、浅草ならではの粋なひと時をお楽しみ下さい。

電 03-3841-0333
住 台東区雷門1-15-1
営 11:30~22:30
休 月曜日 <https://www.ichimatsu.co.jp>



27 川松

鰻、日本料理 地図 P.17-B2



雷門から10軒目、厳選した国産鰻を使用した日本料理店です。創業明治6年、伝統の味とおもてなしの気持ちを受け継いでおります。看板メニューの富貴(3代目女将の名前)は様々な鰻料理をお楽しみ頂けます。

電 03-3841-1234
住 台東区浅草1-4-1
営 11:30~15:00 (LO 14:30) 17:00~21:00 (LO 20:00) 土日祝11:30~20:00 (LO 19:15)
休 月曜日 <https://asakusa-kawamatsu.com/>



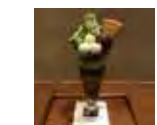
28 甘味処 彩夏 (新仲見世通り)

かき氷、あんみつ 地図 P.14-B2



新仲見世通りの路地にある甘味処です。季節のフルーツを使ったかき氷やあんみつがおすすめ。浅草散策の際にぜひお立ち寄りください。

電 03-3843-5199
住 台東区浅草1-32-3
営 11:00~19:00
休 無休



29 甘味 みつや (観音通り) 甘味処 地図 P.14 - B2



自家製みつにこだわり、白玉やかき氷(夏季限定)、寒天などの昔ながらの日本の甘味をご提供しています。

電 03-3843-5199
住 台東区浅草1-32-13
営 平日12:00~17:00(LO 16:30) 売次第閉店
土日祝11:00~18:00(LO 17:30) 売次第閉店
休 不定休
https://www.instagram.com/kanmi_mitsuya/

30 魚熊水産 ふぐ・魚料理 地図 P.17 - B1



鮮魚全般、お刺身・お惣菜を中心に販売。河豚(ふぐ)や天然生本鮪など高級鮮魚も常時販売しております。また、魚熊水産では、1日1組限定の完全貸切の隠れ家「魚熊倶楽部」を併設しております。(要予約)

電 03-3851-5914
住 台東区蔵前3-20-5
営 11:00~19:00
休 日曜、祝日
魚熊水産: <https://uokuma.com/>
魚熊倶楽部: <https://uokuma.com/page/club>

31 和泉屋本店 (観音通り) あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14 - C1



良質の食材(もち米・うるち米・醤油・天然塩等)を使った、あられ、手焼せんべい、おかきを製造しています。缶・和紙箱・竹籠の御進物セットが人気です。

電 03-6802-7710
住 台東区浅草1-1-4
営 10:30~19:30
休 木曜日
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>

32 和泉屋観音通り店 (観音通り) あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14 - C1



このところ、堅焼の人氣が復活しています。天日干しの「厚焼せんべい」。もち米の「風神雷神」。堅焼の定番げんこつ等、リピーターのお客様がが増えていきます。

電 03-3841-8385
住 台東区浅草1-1-6
営 10:30~19:30
休 木曜日
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>

33 浅草きびだんご あづま (仲見世通り) きびだんご 地図 P.14 - B1



江戸時代、観音様の参道・仲見世で繁昌した門前のきびだんごを再現しております。粋ないさんと下町娘たちのきびだんご作りの実演もご覧下さい。夏の冷し抹茶や冬の甘酒も大評判です。

電 03-3843-0190
住 台東区浅草1-18-1
営 9:00~19:00
休 無休
<http://aduma.tokyo/kibidango/>

34 早田カメラ (伝法院通り) カメラ 地図 P.14 - C3



浅草で創業68年になるクラシックカメラ店です。世界中のフィルムカメラを取り扱っており、博物館にあるようなカメラも置いています。仕入れた商品はすべて自店で整備して販売を行っています。

電 03-3841-5824
住 台東区浅草2-1-3
営 11:00~19:30
休 木曜日
<http://www.photobazar.jp>

35 桐生堂 (浅草メトロ通り) 組紐、和雑貨 地図 P.14 - B2



当店は、商品も手作りですが内装も手作り、材木を切ったりニスを塗ったり、気ままに楽しんでいます。竹を買って店の外側に付けました。下に風知草を置いて、なかなか良く出来たと思っています。

電 03-3847-2680
住 台東区浅草1-32-12
営 10:30~19:00
休 無休
<https://kiriyudo.co.jp>

36 和泉屋仲見世店 (仲見世通り) あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14 - B2



約100種類のあられ、手焼せんべい、おかきを販売しています。江戸情緒あふれるパッケージ(江戸童(わらべ)絵・日本人形・雷門)の土産が人気です。

電 03-3844-2687
住 台東区浅草1-37-1
営 10:30~19:30
休 木曜日
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>

37 ふじ屋 (弁天山側) てぬぐい 地図 P.14 - B3



四季の草花、歌舞伎、歳時記などのオリジナル染絵でぬぐいを額装したインテリアや、江戸時代より「そめぎれ染布」として暮らしの中で使われてきた江戸小紋などで、てぬぐいを生かした粋な暮らしをお楽しみ下さい。

電 03-3841-2283
住 台東区浅草2-2-15
営 11:00~17:00
休 木曜日
<https://tenugui-fujiya.jp>

38 浅草九重 (仲見世通り) あげまんじゅう 地図 P.14 - B3



「浅草寺から三軒目」浅草九重はあげまんじゅうの実演販売のお店です。国産大豆を原材料とし、最高級のごま油を使用しています。日持ちのするお土産用のラインナップも充実し、国内はもちろんのこと、海外のお客様にも人気です。

電 03-3841-9386
住 台東区浅草2-3-1
営 9:30~19:00頃
休 無休
<https://agemanju.jp>

39 常盤堂雷おこし本舗 (雷門通り) 雷おこしを主とする菓子 地図 P.14 - B1



今も変わらず下町ならではの粋や人情にふれあう事の出来る浅草において、下町の心・伝統の味を守り続ける常盤堂。江戸銘菓「雷おこし」家を「おこし」名を「起こす」という縁起の良さから長い間、浅草のお土産として親しまれております。

電 03-3841-5656
住 台東区浅草1-3-2
営 10:00~18:30
休 無休
<https://www.tokiwado.tokyo>

40 かね惣 (雷門柳小路) 刃物 地図 P.14 - B1



プロ仕様から家庭用まで各種取り揃えております。創業(明治6年)以来、伝承されてきた古式鍛錬秘法の切れ味を一度お試し下さい。また、ご婚礼祝い、仏事のお返しなどにもご利用ください。

電 03-3844-1379
住 台東区浅草1-18-12
営 11:00~19:00
休 不定休
<https://www.kanesoh.com>

41 文扇堂雷門店 (雷門柳小路)

舞扇、うちわ等 地図 P.14 - B1



扇専門店として当代で四代。各流派の舞踊家、歌舞伎の役者さん、芸者さんや落語家さんなど多種多様な方にお越し頂いています。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわもあるお店です。気楽にお立ち寄りください。

電 03-3841-0088
住 台東区浅草1-20-2
営 10:30~17:00
休 毎月20日過ぎの月曜日
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>



42 文扇堂仲見世店 (仲見世通り)

舞扇、うちわ等 地図 P.14 - B2



雷門店同様に、古典芸能のプロの方をはじめ多くのお客様に御愛顧頂いております。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわなども御用意しておりますので気楽にお立ち寄りください。

電 03-3844-9711
住 台東区浅草1-30-1
営 10:30~17:00頃
休 毎月20日過ぎの月曜日
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>



43 ミドリ屋 (公会堂横通り)

舞踊衣装 地図 P.14 - B2



舞踊衣装のことなら当店にお任せ下さい。豊富な品揃えと驚きの低価格で、きっとご希望の品が見つかります。その他、お稽古着・反物も多数取り揃えておりますので、是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3843-1441
住 台東区浅草1-30-11
営 10:00~18:00
休 火曜日
<https://midoriya1949.com>



44 木村家本店

人形焼 地図 P.14 - A2



人形焼の木村家本店です。仲見世通り奥の浅草寺様に一番近い角で営業しております。当店の人形焼の形は五重塔、雷様、提灯、鳩の4種で浅草を表現しております。どうぞ昔から変わらない木村家本店の人形焼をご賞味ください。

電 03-3841-7055
住 台東区浅草2-3-1
営 9:00~18:00頃
休 不定休
<http://www.kimura-ya.co.jp/>



45 よのや櫛舗 (伝法院通り)

黄楊櫛、黄楊製品 地図 P.14 - A2



伝法院通りにあり浅草寺、六区方面から大変に便利です。小店舗ですがつけ櫛の種類も豊富で、また櫛やかんざしの使い方も丁寧にアドバイスさせて頂いております。是非一度御来店下さい。

電 03-3844-1755
住 台東区浅草1-37-10
営 10:30~17:00
休 水曜日
(月2回程、火水連休あり)
<https://yonoya.com>



46 よ兵衛 (仲見世通り裏)

揚餅・お団子 地図 P.14 - B3



サクッと軽くお味はしっかり。昔懐かしい母の味「揚餅」を食べていただくため、無駄なものは一切加えず、素朴で香ばしい味を再現しています。お味は生醤油やしお、カレー、生醤油唐辛子など6種類。是非ご賞味あれ!

電 03-3841-0868
住 台東区浅草2-2-7
営 10:00~18:00
休 不定休
<https://www.asakusayohei.com>



47 浅草辻屋本店 (伝法院通り)

和装履物 地図 P.14 - B2



浅草花柳界をはじめ、和装にうろさいお客様に愛され育てられて百年目。長く履いても痛くならず疲れず、熟達した職人の技が生きる鼻緒のすげ。「浅草好み」の履物を豊富な品数で取り揃えております。

電 03-3844-1321
住 台東区浅草1-36-8
営 10:00~18:00
休 12月31日
<https://www.getaya.jp/>



48 浅草の保健室ネオ (馬道通り)

クスリ 地図 P.14 - C3



浅草で創業63年のくすり屋です。一般薬・健康食品・ヒノキ肌粧品など取扱っております。なんでもお気軽にご相談くださいませ。

電 03-3841-5329
住 台東区浅草2-1-15
営 月~金9:30~19:00
土9:30~18:00
休 日曜日
<https://www.neo-ph.com>



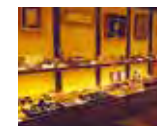
49 江戸金銀工芸もり銀 (オレンジ通り)

銀製品全般 地図 P.14 - A2



日本の金銀工芸は西暦600年代より始まり、江戸時代に入って花開きました。現在もその時代からの手法を引き継いで、銀の食器類・アクセサリー等自家製作販売をしております。日本の伝統文化を表す品々と自負しております。

電 03-3844-8821
住 台東区浅草1-29-6
営 11:00~18:00
休 12月31日
<https://asakusa.gr.jp/shop/morigin.html>



50 宮本卯之助商店本店 (吉野通り)

太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.15



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3873-4155
住 台東区浅草6-1-15
営 10:00~17:00
休 土日祝日
<http://www.miyamoto-unosuke.co.jp>



51 株式会社製菓川喜多

菓子製造、販売 地図 P.15



弊社は戦後にもなく川喜多忠之助により、お菓子製造から始まりました。駅、高速SA等でおなじみの「東京サンド」等の問屋様への卸売販売、老舗様のOEM製造を中心としてきましたが、現在では「浅草の菓子屋」になりたく、「浅草川喜多」の名前の洋菓子の製造・販売に重点を置いております。工場直販です。

電 03-3875-0013
住 台東区浅草5-56-4
営 9:00~17:00
休 日・祝日(土曜日不定休)
<https://www.s-kawakita.co.jp>



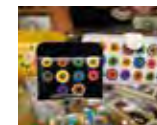
52 デイジー (新仲見世通り)

バッグ、小物 地図 P.16 - C1



魅力的な貴女をより輝かせるバックと小物。デイジーはそんな貴女にピッタリカラフルな品揃えで心までウキウキ間違いナシです。オリジナル品を中心としたオサワフや札入も個性的な貴女にピッタリ特注・別注・修理も大歓迎です。

電 03-3847-8118
住 台東区浅草1-22-10
営 10:30~18:00
休 不定休
<https://www.asakusa-shinnaka.com>

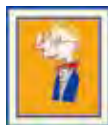


53 渡辺眼鏡商店 (ためき通り) めがね 地図 P16-C1



創業明治20年の眼鏡専門店です。オリジナルフレーム、アンティークフレーム、眼鏡ケース、眼鏡チェーンなど他所には無いものをお探しの方はちょっと覗いてみて下さい。眼鏡修理も承っております。

電 03-3841-7466
住 台東区浅草1-16-7
営 09:30~18:30
休 火曜日
<http://www.watanabemegane.com>



54 めうがや (言問通り) 足袋、祭用品 地図 P16-C3



“めうがや”と書いて「みようがや」。旧仮名で“どぜう”を「どじょう」と読むのと同じです。夏に麻足袋、柄足袋も多種揃っています。お祭には、オリジナルの祭用品で粋にキメて下さい。

電 03-3841-6440
住 台東区浅草2-27-12
営 10:30~18:00
休 水曜日(不定休あり)
<https://meugaya.jp>



55 宮本卯之助商店西浅草店 (国際通り) 太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P16-B1



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3844-2141
住 台東区西浅草2-1-1
営 10:00~18:00
休 火曜日
<https://www.miyamoto-unosuke.co.jp/>



56 ヤマダの家具 (合羽橋通り) 家具・内装工事・リフォーム 地図 P16-A2



飲食店のイス・テーブルの製造販売と内装工事を承っております。最近ではイスの張替、リフォーム工事等、大変好評です。お見積りはもちろん無料ですので、大小にかかわらずどうぞご相談ください。

電 03-3843-6656
住 台東区松が谷3-2-12
営 10:00~17:00
休 土・日・祝
<https://www.yamada-no-kagaku.jp>



57 今昔きもの龍巳 (オレンジ通り・伝法院通り角) 着物 地図 P16-C2



龍巳では大正・昭和のアンティーク着物から、最近のリサイクル着物・帯などを格安にて販売しております。本店・龍巳にて婚礼衣装の一式レンタルも格安で承っております。

電 03-3843-7606
住 台東区浅草1-39-11
営 10:30~19:00
休 無休
<https://asakusa.gr.jp/jp/?p=742>



58 まつもと履物店 (浅草ひさご通り) 和装履物専門店 地図 P16-B3



自店で仕上げた草履、下駄、雪駄等を商う和装履物専門店。1899(明治32)年、浅草千束町二丁目にて創業。代々継承される職人技術と徹底した品質管理を経た、(株)まつもと履物店の和装履物をぜひ一度、お試しください。

電 03-3841-2461
住 台東区浅草2-22-11
営 11:00~18:30
休 火曜日
<https://www.wasou-hakimono.com/>



59 龍昇亭西むら (雷門通り) 和菓子司 地図 P17-C2



看板の栗むし羊かんはもちろん、大桃山金龍、東京かすていら、昇り鮎など浅草の催事と、季節に因んだ品々は大人気です。創業は江戸中期と古く、安藤広重の「雷門前図」にもお店が描かれています。

電 03-3841-0665
住 台東区雷門2-18-11
営 09:30~18:30
休 火曜日
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/nishimura.html>



60 市川とうふ店 (万太郎横町) 豆腐 地図 P17-B2



浅草の老舗飲食店への卸を中心に、国産大豆にこだわり手作り豆腐一筋三代にわたるお店です。店頭での販売ではなく「おぼろ豆腐」が人気です。水にまったらさらさない、大豆風味豊かな味を一度御賞味下さい。

電 03-3841-1357
住 台東区雷門1-14-3
営 5:00~19:00
13:00~16:00は休憩
休 水曜日
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/tofu.html>



61 宗舟 (浅草消防署手前右入る) 木彫刻 地図 P17-B2



初代より百年以上にわたり社寺、仏像、置物などの木彫刻を専門に手掛けてきました。一階はギャラリーで、大黒様や聖観音菩薩など仏彫刻、根付け、小盆なども展示しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3845-0458
住 台東区寿4-12-2
営 9:00~17:00
休 日曜日・祝日
<http://so-syuu.jp>



62 宝研堂 (江戸通り駒形どぜう裏) 書道用品専門店 地図 P17-B2



ご愛用の硯を研ぎ直し目立てをします。面を整地し直し厳選された砥石をかけ、仕上げに丸一日かけます。これを行うと行わないのでは、使用感、見た目にも驚くほどの違いが出ます。是非一度お試しください。

電 03-3844-2976
住 台東区寿4-1-11
営 月~土10:00~18:00
日10:00~17:00
休 第1・3を除く日曜日・祝日
<http://houkendo.co.jp>



63 岡田屋布施 (国際通り) 太鼓・神輿・仏壇仏具・御宮神具 地図 P17-A2



創業天保6年(1835年)以来、浅草田原町で太鼓・神輿の製造・修理、また仏壇仏具・御宮神具など数多く販売しております。神事や仏事そして郷土芸能に至るまで、日本の伝統文化にまつわる商品はぜひ岡田屋布施へ。

電 03-3841-1867
住 台東区雷門1-16-5
営 10:00~18:00
休 水曜日
<https://www.taikoya.co.jp>
<https://butsudan-okadaya.com>



64 吉徳の人形 浅草橋本店 人形 地図 P18-B1



創業正徳元年(1711年)。「人形は顔がいのち」の吉徳では、雛人形・五月人形をはじめ、日本人形やかわいいぬいぐるみ、季節の小物などを多数取り揃えております。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

電 03-3863-4419
住 台東区浅草橋1-9-14
営 9:30~17:15(1/2~5/5は9:15~18:00)
休 不定休(1/2~5/5までは無休)
<https://www.yoshitoku.co.jp>



65 人形の久月 浅草橋総本店

人形専門店 地図 P.18 - B2



浅草橋総本店では、お節句の時期は、1階から3階フロアに地域一番の商品を揃えております。人形は飽きのこない、つまり、全体のバランスがとれている物を選び頂く事が大切です。是非、皆様のご来店をお待ち申し上げております。

電 03-5687-5176
住 台東区柳橋1-20-4
営 9:15~17:15
(11/1~4/30は9:15~18:00)
休 無休
kyugetsu.com/shop/13647



66 鮎佐

佃煮専門店 地図 P.18 - B3



佃煮はもとも、魚介類を海水で一緒に煮た佃島の漁師の保存食であったと云われています。鮎佐の創業者である初代 大野佐吉が、食材ごとに醤油で煮込む佃煮を発売したことで、鮎佐は「佃煮の元祖」として文久2年(1862年)の創業以来商いを続けて参りました。鮎佐の佃煮の特徴であるスッキリとした味は、歴代当主に受け継がれてきた一子相伝の製法によるもので、現在は5代目大野佐吉が自ら釜場に立ち、江戸時代から変わらぬ秘伝の製法で佃煮を製造しております。ぜひ、本物の江戸の味をご賞味ください。

電 03-3851-7043
住 台東区浅草橋2-1-9
営 9:00~17:00
休 日曜日・祝日
https://www.funasa.com



67 甘味 みつや 仲見世通り店 (仲見世通り)

甘味 地図 P.14 - B1



自家製みつにこだわり、白玉の新たな楽しみ方を提供する、お土産、お持ち帰り出来る「白玉手箱」を販売しております。

電 03-5246-3351
住 台東区浅草1-18-1
営 11:00~18:00 完売次第閉店
休 不定休
https://www.instagram.com/kanmi_mitsuya/

68 壺番屋

手焼きせんべい、雷おこし 地図 P.14 - B2



手焼きせんべい、雷おこしの壺番屋です。浅草仲見世通り、雷門と宝蔵門のちょうど中間ほどに御座います。職人が炭火で香ばしく焼き上げた、浅草の意気が詰まった粋な味をお楽しみください。心よりお待ちしております。

電 03-3842-5001
住 台東区浅草1-31-1
営 8:00~18:00
休 無休
https://www.senbei-yaketayo.com



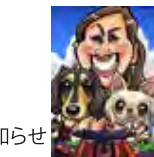
69 カリカチュア・ジャパン

似顔絵 地図 P.14 - B2



当店のコンセプトは「浅草の楽しい思い出を絵でお持ち帰り頂く」。また、アーティストが描いたイラストをバックに記念撮影も!皆様のご来店を心よりお待ちしております。浅草限定の季節の背景と一緒に描きします!

電 03-5830-7220
住 台東区浅草1-37-6
営 11:00~19:00
(18:30受付終了)
休 ホームページで毎月お知らせ
https://caricature-japan.com



70 村石電気工事 (仲見世会館そば)

電気工事業 地図 P.14 - B2



右の写真は当社が電気工事をした、汐留シーティーセンタービル41階のFISHBANK(フランス料理店)です。このような工事を手がけ、また特殊ランプ等も販売しています。是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3845-2345
住 台東区浅草1-32-9
営 08:00~17:00
休 日曜日
https://www.asakusa.gr.jp/shop/muraishi.html



御神木「槐」の木の由来(ごしんぼく「えんじゅ」)



槐は中国原産の豆科の落葉高木で、高さは10mにもなります。初夏黄白色の蝶形の花を付け、中国では記念樹として植えられますが、日本では街路樹などにも多く植えられています。浅草寺境内の槐の木は、枯れては生えているので絶えることがないそうです。浅草寺のご本尊の聖観音菩薩は推古天皇の頃、漁師であった檜前浜成・竹成兄弟により網得されて川辺の槐の木の切株に安置されましたが、土師仲知が自宅内に堂を設けて観音様をお祭りしたのが浅草寺の起りだと伝えられています。また、仲知達の子孫が3人を神様としてお祭りしたのが三社権現社です。

槐の会からのお知らせ

浅草槐の会(あさくさえんじゅのかい)は、浅草寺のご本尊の聖観音菩薩が、推古天皇36年(628年)3月18日、隅田川で示現され、槐の木の切り株(現在の駒形堂あたり)に安置されたといういわれから「浅草槐の会」と称しました。浅草槐の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで紹介いたしております。また、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡を中心に編さんした『日本の扉浅草』を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策のお役に立てば幸いです。

※この冊子は、槐の会会員店舗にて無料配付しております。



えんじゅ 浅草槐の会事務局

浅草文化観光センター



台東区浅草文化観光センターは、浅草寺を中心とする浅草の文化的遺産の保護・再発見に努めるとともに、広く全国に紹介するための施設。浅草の持つ特有の庶民文化や行事等の故事来歴などを紹介している。2012年4月20日(金)にリニューアルオープンしました。
開館時間午前9:00~午後8:00(年中無休)

台東区観光ボランティアガイド

台東区では、観光に来られた方の案内役として「観光ボランティアガイド」制度を設けています。利用できる人数は、2~3名の小グループから団体まで幅広く、「浅草寺を中心とした思わぬ発見コース」など、さまざまな相談に応じてコースを設定してご案内しています。台東区観光ボランティアガイドに関する詳しいお問い合わせ、お申し込みは次のところまで。

台東区観光ボランティアガイド事務局

TEL: 03-3842-5599 FAX: 03-6673-3046
ホームページ <http://www.taitouboragai.com>

